

令和6年7月15日

浜田市議会議長 様

議員名 佐々木 豊治

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・埼玉県飯能市 埼玉県飯能市大字双柳1-1
- ・東京都八王子市「八王子市立高尾山学園」
東京都八王子市館町1097-30

2. 視察事項

- ・不登校児支援「ステップアップルーム」の取組について
- ・不登校特例校「高尾山学園」の取組について

3. 視察の目的（市政との関連など）

全国的に増えつつある不登校対策について学ぶもの。
浜田市でも不登校の比率が高く、今年度から試行的に「校内フリースクール」を始めたが、より効果的な取組み内容にするための視察。

4. 期間（移動日を含む）

令和6年7月11日（木）～ 令和6年7月12日（金）

5. 経費 38,420 円

（経費内訳 宿泊代 7,800 円、旅費 30,620 円）

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

不登校児童生徒の居場所づくりとして、市内2校でフリースクールが設置された。同様の校内フリースクールとしての飯能市の「ステップアップルーム」の取組みからはより内容の充実を進めるように、また、高尾山学園の取組からは通常校で取組める不登校対策など、それぞれ質問で取り上げたい。

7. 視察内容

詳細は別紙のとおり



埼玉県飯能市

◆視察先の概要

飯能市は埼玉県の南西部に位置し、人口は 78 千人、面積は 193 平方キロメートル。

昭和 29 年に県下 9 番目の市制を施行、古くは林業と織物のまちとして栄え、昭和 40 年代からは宅地化が進展し、高校や大学、工場などの立地も進み、首都圏の近郊住宅都市として変化をみた。平成 17 年には旧名栗村と合併、県内 3 番目という広大な面積を持つ市となった。都心から約 50 キロメートル圏内に位置し、交通アクセスも良好な環境にありながら、緑と清流という自然に恵まれている。平成 17 年 4 月 1 日に「森林文化都市」を宣言し、自然と都市機能が調和した、暮らしやすい都市を目指したまちづくりに取り組み、さらに平成 31 年 3 月 16 日に「平和都市」を宣言している。

◆視察の内容

飯能市でも不登校が大きな課題となっていた。

平成 29 年には 88 名だったが年々増加し令和 5 年には 269 名となった。

生活態度が変化してきたことが原因のひとつ。多様化する原因のなか、不登校の数を減らすだけではなく、ニーズにあった居場所づくりが必要になり、中学校ではスペシャルサポートルームを準備、小学校では実態に即しながらルームや相談対応を行っている。

カウンセラーや相談員を充実させ、苦しんでいる状況にならないように対応している。

学びの多様化で校内に設置。

第一中学校は支援員 2 人配置、他の中学校はボランティアで対応。ボランティア、民生委員、学生など。

部屋が存在は 7 校中 5 校 ルームを作って、保護者も協力。

あとの 2 校はいつでもどこでも対応できるようにしているが、今後ルームとして立ち上げたい。

小学校は 2 校で人は配置していない。今年度利用はゼロだが、昨年は 4、5 人いたが、復帰した。

他の 10 校は教室が足りないが、いつでも来ていい、いつでも対応する。

不登校の研修も開始し、令和 5 年 8 月に実施、教員の意識改革、全学校に居場所を作ってくださいとお願いした。

美杉台中学校の立ち上げで、人を配置しなくても実施することができる。

心理士に先生に居場所の運営の講義を行ってもらった。

先生の威圧的な態度、言動は絶対やめるように周知した。先生方の姿勢が変わってきた。

飯能高校の司書教諭に話をしてもらい、図書館に喫茶店やこたつを置く取組などしてもらった。

福祉の研修会も今年度考えている。

市内のフリースクールに校長が訪問し連携している。委員会も挨拶に行っている。

特別教育支援を 2 名配置しているが資格は無し。先生に抵抗が無いように。教員経験がない人。心理士の研修を行なった上で配置をしている。

体験した子供の話として、学校に来やすくなった、先生がこんなに優しいとは思わなかった。

空き時間にほとんどの先生がルームにきて、温かくなっている。学校の雰囲気がとても良くなっている。

不登校の保護者交流会を実施し、1 回目は 17 名が参加。

この会があって安心した。我が子だけと思った。また開催してほしいとの声も。

ルームに通っていた卒業生を 2 名呼ぶ。不登校だったが高校生活を満喫。

◆ 質疑

Q、支援員 2 人の予算は？

A、時給 1,116 円で年 115 日の勤務でどちらかが必ず配置している。

Q、部屋の設置の予算は？

A、図書室を活用していることもあり特にない。

Q、全体の配置は？

A、中学校は支援員配置が 1 校、虹色ルームのボランティア配置が 4 校、2 校はこれから。

小学校 12 校で、2 校がボランティアを配置。

Q、今後の状況は？

A、今後、スタッフをつける方向で進めていきたい。地域の協力もある。

小学校では校長先生がみている学校もある。

◆ 平野校長先生の話

全校生徒 530 人のうち十分の一が欠席状態。学び合うまなび、授業の充実も大事。

図書室が誰にも見つからない部屋で子供が入りやすい場所だった。支援員を 2 名配置してもらった。

支援員は説教しない。他にさわやか相談員も。教員も 1 日一回はのぞく。

今年は減ったが去年は最大 15 人いた、3 年生が多かった。

出られる授業は出られるようにしているが、わがままではなく憲法に保障された学ぶ権利。

教室に入った時に怖さを感じる子もいた。朝ごはんもない。昼夜逆転。にらんでいるように見える。

先生方の意識を変えてもらい、「よく来たね」と声をかけてもらう。

サポートルームから教室に出入りする子もいる。

この部屋が決め手ではなく、先生の話聞く授業から、子どもが学ぶ授業への意識を。子どもの人権を守る。

呼び捨てはやめる。

◆所感

スペシャルサポート設置はまだ少ないが、現場の先生の意識が大きく変わってきていると感じた。

多くの小学校では部屋の設置が無くても、不登校児童の対応もできる状況にあり、校長室もその部屋になるとのことだった。

不登校の児童生徒の対応は経費をかけなくとも、様々な対応の方法があるのではないかと思う。

現場の先生の意識改革がとても重要とも感じた。



東京都八王子市立高尾山学園

◆視察先の概要

八王子市は、東京都心から西へ約 40 キロメートル、新宿から電車で約 40 分の距離に位置している。

大正 6 年（1917 年）の市制施行から、平成 29 年（2017 年）で 100 年を迎え、平成 27 年（2015 年）4 月に、東京都初の中核市となり、人口約 58 万人の多摩地区のリーディングシティとして、21 の大学を抱えた学園都市として、発展を続けている。

人口は 56 万人、面積は 186 平方キロメートル。

◆視察の内容

黒沢校長先生のお話（校長は民間出身で12年目）

不登校が多かった状況があり、使われなくなった小学校を改修し、2004年に不登校特例校として全国で初めて開校。（現在は「学びの多様化学校」の名称に）

地域の学校と同じで、学力ではなく、まずは人間関係を大切にする学校に。時数軽減が2割となっている。

全国に35校配置されている。フリースクールとは違う。

教員の配置は地域の学校との同じ条件で配置し、持ち出し人件費はかかる。

不登校とはいろんなものがない状態。友達、学習、心

大人は〇〇したい(させたい)状態。→こういう大人にさせたい。

無理になった時、学校も家もダメになる。

不登校理由

1、学校が楽しくない。社会性や学力が無い。ここは教員の出番。

2、家庭の中が辛い。逆境体験、ネグレクト、過干渉もある。貧困。

対応は15名のSSWで、いじめの発見、不登校対策。ここは福祉的支援。

3、本人の生きづらさ。医療的支援。学校医として、児童精神科の医師に来てもらっている。（教員は言いたくても言えないから、医師をつかう。SSWも。一度受診されたらどうか）

教育と福祉と医療が連携する。

万策尽きた子が来る。どう振り向かせるかが学校の役割。

子供達は潜在的に勉強ができるようになりたい。

プレイルームは授業の居場所。自由に授業を抜け出せるようになっている。教員は打倒プレイルーム。

転入はまずは教育センターやまゆりに入る。その後、審査会を経て学園に入学。

現在の学園の児童生徒は 98 人。やまゆり教室は 154 人。

20 年間を通して、ほとんどの児童生徒が元気になり、信頼できる友人や大人を獲得し、学習に取り組むようになる。自信をつけて卒業も。

進学率は 97%、高校在籍率は 85% となる。

通常校でできる不登校未然防止策

- ① 先生が「ねばならない」からの脱却
- ② 徹底した情報共有（担任が抱え込まない）
- ③ 少しだけ余裕をつくる。
- ④ 関われる人を多くする。（ボランティアなど）

◆ 所感

校長先生から冒頭に「学校は安心して楽しい場所ということがわかれば、子ども達は来るようになる」とのことで、現場の先生の意識改革がなされていると感じた。

特例校の設置はハードルが高いが、通常校での改革は可能と思う。そのためには教員の働き方改革も並行して進めることが重要と感じた。

